



Hint for life

歯科医療の最適解を求めて

テーマにある Life とはまさに患者さんの「一生」を意味します。少年少女期・青年期・壮年期・老年期とヒトの Life stage にはいくつかの段階があり、身体的成長や老化、生活環境の変化に応じて必要とされる歯科医療にも変化を求められます。今大会では、ヒトの一生を横軸に、それぞれの段階で見られる特徴的疾患に着目し、我々歯科医療関係者がどのようなアプローチでその問題を克服していくのかについて論じます。ヒトの一生とその時々において必要とされる歯科医療を俯瞰することで、いまの私たちにできる「最適解」を見つけます。そしてそれが患者さんと我々の双方にとっての「Hint for life」となることを願っています。



第11回 日本包括歯科臨床学会学術大会

大会長：川端 秀治 実行委員長：矢守 俊介

2023年 7月 1日 (土) 前夜祭 札幌パークホテル 18:00~

2日 (日) 学術大会 北海道歯科医師会館 9:00~16:30

基調講演 包括歯科臨床の役割

これからの歯科医療への願い 筒井 照子

DTセッション

ティアーライナーの年齢変化による
リリースの注意点と工夫 河原 一之 (DT)

包括的歯科技工のデジタル化
について 古家 豊 (DT)

患者と共に学び歩む
ーシンラシステムの活用 瀬川 洋志 (DT)

コデンタルセッション

基調講演 「力のコーディネーター」に
知ってもらいたいこと 筒井 照子

小児矯正における
コデンタルの役割 山口香奈美

幼児期、学童期 (1歳6ヶ月~13歳) における
包括歯科臨床の役割

小児期における口腔機能・形態の
発育を考えた口腔育成への取り組み 上谷 智哉

思春期、青年期 (13~22歳) における
包括歯科臨床の役割

成長期における矯正治療の役割 筒井 武男

青年、中年、壮年期 (22~65歳) における
包括歯科臨床の役割

咬合療法を基に治療介入した壮年期の
治療から力のコントロールを考える 野村 英孝

フルマウス長期症例の経過報告 吉田 健

欠損歯列と欠損補綴
欠損歯列の捉え方と補綴設計 渡邊 祐康

老年期 (65歳~) における
包括歯科臨床の役割

総義歯で健康寿命の延伸へ 長田 耕一郎

出版記念講演

クインテッセンス出版刊

臨床マニュアル

口腔機能障害のリハビリテーション

I. 口腔機能を診る

- 1-1 歯があることと噛めること
- 1-2 調和 (バランス) を壊す生活習慣に注目する
- 1-3 崩壊の診断と回復計画のための診断 (二つの咬合論)
- 1-4 個体差
- 1-5 個体差に基づくスプリント療法
- 1-6 咬合様式と限界運動・咀嚼運動
- 1-7 顎関節は適応する

II. 顎口腔機能障害とは

- 2-1. 顎口腔機能障害を広くとらえる
- 2-2. 顎口腔機能検査から何を読むか?
- 2-3 咬合基本治療
- 2-4 二つの基本治療

III. 多様な顎口腔機能障害への対応

- 3-1 顎関節症
- 3-2 舌痛症・耳症状
- 3-3 無呼吸症候群 (OSAS)
- 3-4 非歯原性歯痛
- 3-5 一般に「不定愁訴」とされるケースへの対応
- 3-6 顎機能障害患者の咬合再構成

お申込み先



筒井照子先生
臨床マニュアル
口腔機能障害のリハビリテーション
咬合療法研究会 出版に寄せて

西林 滋先生
態癖による歯列の狭窄化
人間の一生を左右する
予想を超えた悪影響

任 順興先生
包括歯科臨床を考えて
Ⅲ級プレーキーに対する
咬合再構成の一例

太田雅之先生
個体差を考慮した
全部床義歯作製の取り組み

参加費など詳細はWEB申込でご確認下さい。



日本包括歯科臨床学会 <http://jcd.22i-std.or.jp/>

顧問：筒井照子 会長：国賀就一郎 Tel: 03-6826-8099 e-mail: jimu@22i.gr.jp

FAX番号：03-3269-8372